

日本造血幹細胞移植学会 編集委員会委員長 ご挨拶

この度、日本造血幹細胞移植学会 編集委員会委員長を拝命しましたので、一言ご挨拶申し上げます。

編集委員会は、日本造血幹細胞移植学会の会員間の情報交換と造血細胞移植医療の向上に寄与するために「日本造血細胞移植学会雑誌」（以下、学会誌）の発行に係わる業務を行っています。2012年4月23日に学会誌第1巻第1号を学会ウェブページにて公開されて以来、年4回発刊されています。赤塚美樹前委員長は第1号の発刊から担当されており、赤塚前委員長の編集委員会における歩みはまさに学会誌の歴史そのものと言えます。多大な功績を残された赤塚前委員長から重責を引き継ぎ、身の引きしまる思いです。

創刊号の巻頭言で本学会誌が目指す方向性が示されています。今村雅寛前理事長による「従来は年1回の総会でしか他施設の発表に触れることができなかった分を補う意味でも、また論文として発表することで、より多くの方に読んでいただける機会を増やし、お互いに刺激し合う」こと、そして、小寺良尚元理事長の「造血細胞移植領域に特有な重要性を持ったトピックスは在るのであり、わが国やアジアに特有なトピックスも在るのであって、そういったものが他の学会誌に先駆けて掲載され」、「症例報告や、それらの症例に基盤を置いた臨床研究、臨床研究から湧いてくる疑問に光をあてるための基礎研究、そしてその成果の臨床への還元といった道筋が、本学会誌を通覧して見えてくるようなものになる」こと、さらに岡本真一郎理事長の「新規ガイドラインなどの周知徹底、若手の移植医の教育と様々な活動の asset としてこの雑誌を役立てる」ことを目指していきたいと考えております。

創刊当時から議論のあった「将来的には、この雑誌がBMTやBBMTと肩を並べる Asian Blood and Marrow Transplantation Group の機関誌として国際的に認知されるようになる（岡本真一郎理事長）」ことに関しては、APBMT自体に機関誌が発刊されることとなりました。従って、本学会誌はメディカルスタッフも含め多くの本学会会員が気軽に読めることを考え、今後も英語・日本語混合誌として継続したいと思います。また、課金の発生しない完全オープンジャーナルという発行形態も継続する予定です。PDFの閲覧回数も順調に増加しており、この勢いをそのままに造血細胞移植の発展に寄与できる学会誌として内容の充実に努めて参りたいと思います。今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。

編集委員会委員長
前田嘉信